

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 25人 国語B 25人

② 算数A 25人 算数B 25人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

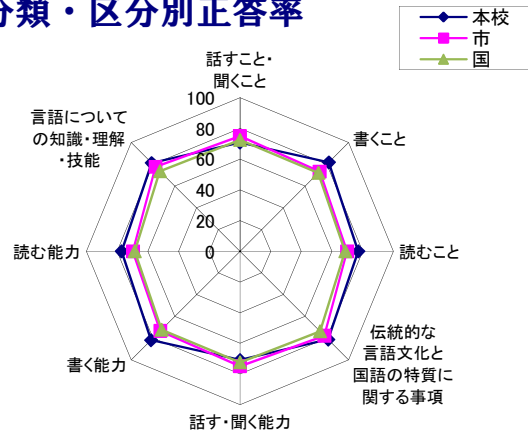
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

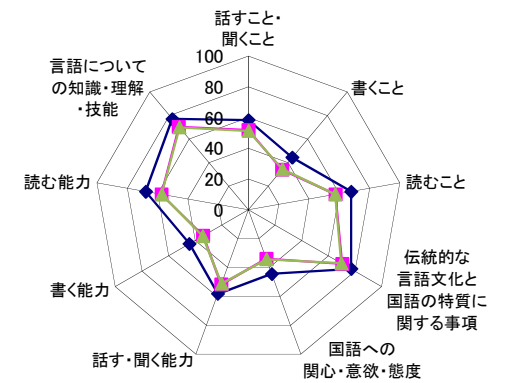
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.8	74.9	72.4
	書くこと	81.9	73.4	72.2
	読むこと	77.1	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.3	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	70.8	74.9	72.4
	書く能力	81.9	73.4	72.2
	読む能力	77.1	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	81.3	77.8	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	58.3	51.9	51.2
	書くこと	44.4	34.0	34.4
	読むこと	67.9	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	44.4	34.0	34.4
	話す・聞く能力	58.3	51.9	51.2
	書く能力	44.4	34.0	34.4
	読む能力	67.9	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	77.1	70.5	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的回答は、50.0%で全国より10%以上高くなっている。これは全体的に正答率が高くなっている要因だと思われる。
○「調査問題の解答時間は十分でしたか」に対する肯定的回答は、84.8%と全国との比較で30%以上高くなっている。このことから、児童は余裕をもって問題に取り組むことができ、その結果、高い正答率につながったと考えられる。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

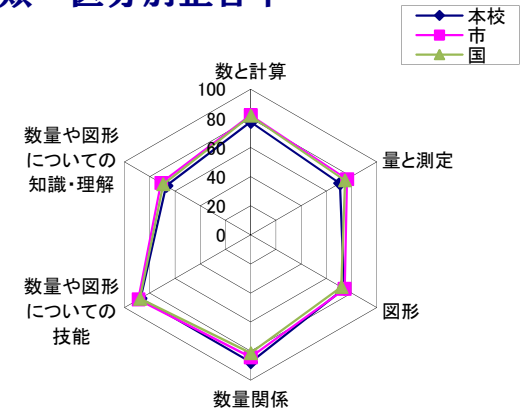
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおける本校正答率は70.8%であり、市の平均との比較で4.1%、全国の平均との比較で1.6%低い。 ○国語Bにおける本校正答率は58.9%であり、市の平均との比較で6.4%、全国の平均との比較で7.1%高い。	話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題において、話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける方法を重点的に指導する。
書くこと	○国語Aにおける本校正答率は81.9%であり、市の平均との比較で8.5%、全国の平均との比較で9.7%高い。 ○国語Bにおける本校正答率は44.4%であり、市の平均との比較で10.4%、全国の平均との比較で10.0%高い。	全体的に概ね良好であるため、今までの取り組みを継続しつつ、個に応じた指導に重点をおき、一人一人の力を伸ばしていく。
読むこと	○国語Aにおける本校正答率は77.1%であり、市の平均との比較で7.4%、全国の平均との比較で8.6%高い。 ○国語Bにおける本校正答率は67.9%であり、市の平均との比較で10.4%、全国の平均との比較で10.6%高い。	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aにおける本校正答率は81.3%であり、市の平均との比較で3.5%、全国の平均との比較で7.6%高い。 ○国語Bにおける本校正答率は77.1%であり、市の平均との比較で6.6%、全国の平均との比較で7.3%高い。	

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

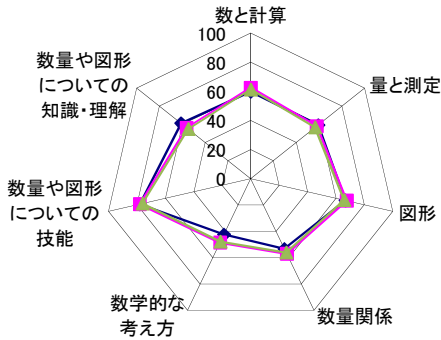
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	77.6	82.2	81.8
	量と測定	70.8	76.4	74.8
	図形	74.0	74.5	71.8
	数量関係	87.5	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	87.5	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	67.1	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	59.9	62.6	61.3
	量と測定	59.2	58.0	56.5
	図形	66.7	67.5	65.7
	数量関係	53.3	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.4	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	78.1	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	61.1	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「算数の授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役に立つと思いますか」に対する肯定的回答率が88.5%と非常に高くなっている。
○「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的回答率も84.6%と高くなっている。
これらのことから、将来を見据えて算数の勉強に励んでいる様子が伺える。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●算数Aにおける本校正答率は77.6%であり、市の平均との比較で4.6%、全国の平均との比較で4.2%低い。 ※算数Bにおける本校正答率は59.9%であり、市の平均との比較で2.7%、全国の平均との比較でわずか1.4%だけ低くなっているが大きな開きは見られない。	整数・小数の問題や整数×1以下の数での正答率が下がっている。位取りの方法や小数点の打ち方などを重点的に指導する。
量と測定	●算数Aにおける本校正答率は70.8%であり、市の平均との比較で5.6%、全国の平均との比較で4.0%低い。 ○算数Bにおける本校正答率は59.2%であり、市の平均との比較で1.2%、全国の平均との比較で2.7%高い。	単位量あたりの大きさにおいて、求めるものに対応した式を立てられるように重点的に指導する。
図形	○算数Aにおける本校正答率は74.0%であり、市の平均との比較ではほぼ同等であり、全国の平均との比較では2.2%高い。 ○算数Bにおける本校正答率は66.7%であり、市の平均とほぼ同等であり、全国の平均との比較で1.0%高い。	この領域では概ね良好であるため、これまでの取り組みを継続しつつ、個に応じた指導に重点をおき、一人一人の力を伸ばしていく。
数量関係	○算数Aにおける本校正答率は87.5%であり、市の平均との比較では3.3%高く、全国の平均との比較で6.2%高い。 ※算数Bにおける本校正答率は53.3%であり、市の平均との比較で3.8%低く、全国の平均との比較で2.9%低くなっているが大きな開きは見られない。	

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的回答割合は100%であった。

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」に対する肯定的回答割合は84.6%と高く、これは小規模校の特徴として、大半の児童が責任ある役割を任される機会が多いからだと考えられる。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的回答割合は100%であった。いじめをなくそうとする全校をあげての取り組みが児童の意識に浸透しているからだとと思われる。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」や「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」に対する肯定的回答が、全国との比較で低くなっている。書くことを苦手としている児童が多い。しかし、「書くこと」において国語A、国語B共に全国平均を上回っており、能力の落ち込みは見られない。児童が文章を書く機会を数多く設定し、作品を称賛し、書く意欲の向上に努めていく。